新板

梁塵愚案抄

下

伊地知文庫
文庫20
442
2

梁塵愚案鈔巻下

催馬樂

愚案催馬樂は昔は歌の名にて
納一付民のうたをそこに採りて歌ひ
しなどと名付くるなり也馬と催とをかけくいはつるなり
出来たる馬をかり催をとんぢ

律

我弱

いて我弱しもゆさもゆさ世もすらもゆさもすらもゆさもすれ
二段　作らくしんくとゆさて義ゆさてやうん
愚案古弱歌は万葉集十二よりてまた弱し屋
くゆさこ世もすらもゆさもすらもゆさ峠とゆさ

しぐれ降る頃とて、とうとう降りぬべきを、
なほ、ゆかしき世に移ろひ、
大れ紀伊国の山のひとあるを、これに歌二首の
つゝみを名ぬかうへ

沢田川

二首　ゆきまれらむの人やたゝまし
三首　あしもとをこゝろ
長歌　しぐれい沢田川神代くゝりあされと
のゝ人あうゝ
てうゝふし沢田川久遠の都ちられ山城国の家
よあうゝの神よひうゝ

後ちとゝ言ふ
ゝとまゝとゝ
頃のあゝれをこゝ
こゝこのあゝ

言砂

あうゝこのゝいゝこの、あうゝこの
二首　おの〳〵よゝちゝ
三首　ちをかゝ
四首　ゝりゝ
五首　おゝうゝ
六首　ゝゝ
七首　ゝゝ

万葉高砂の山の名なりさいさこいたりさいさこ
高砂も小石のかさなりてふしかたりんと二段の白玉
樫い花の白さ樫と云こと二段のそれもうとさんかも
きうと云翔しきしうとい世うと云こと世段稲りをさ
んおい織ふう安と云んとさんをうけい安紫紫とかく伯
りのと立段のるよきうとさんいるふうと云翔こ古今の
奇よ雅しうとうと云うゆし立段のんとすさいんよ伯
しうと云こゆり花い百合花こさゆりいよくいくゆり也
七段いそのんを審申

文引

文引のさうあるうりありさ安よとりてをさをん
きしめうしをれよ

二段　かうれよありうとうまうあさきあをうう
りのらうくありうをうさうくうくうく

貫河

めさ川のそのやつこたちやつこふめら取いなく
ておやさらつかま

二段　おやさらつまよいもしてさらつあつ
しやさらさのいちよくつくひようん

三段　くつくつちついのうそしさとくさしさて
うしさらうさてこやちかよくん

是あ赤貫河い義法ふよ伊豆貫河と云ふあり
伊豆と異なしていつりをこの女花い波花と云ふめし
波いわつこさ花ふまいやさつよめら取いかこと花よ
つをていつりおやさらいふ又母としてこの妻とさらう
也二段おやさらつまよ文の河しまいハ海こてう日を

志もい駆こしやひやうよてれう駆こしさつあつ
かつのつつあつこと云河こやさつきのいちハ冬河ふ
夫紡の里よさてう市こくたいハ母の河こかひようん
ハうひよゆうんこと二段いハ母の河こちつひのかそつふい
指のぬひめれちいたいこと云女のくたいこかひようん
さうれと云さつこそれてらつれとつくとこうこと云ハ猪の
字こ志ひつこと云こふちいこ川の云よこふちいこと云ふ
ありやこさの市周ふかうへつ

東屋

東屋のすやのあまりつ乃ぬてつこさ我ぬ為ぬてひつうせ
二段　かこうひこと屋つこあつくこまそうのとんのやこ家
作くめれつくこひてこさゆ也我やへつま

長業四郎とうさてあつまやとしむあとうゑ
まやとよめり四郎は西遊記の巻より新あり
なまりの巻方よおつる所とまやは甚所つくり
あ方よ水のおつるを云あまりは新のしりこはまき
うさいふあとのこいこ戸を云ゆ二段のかをしん
はしりとしてすうのとんのとこ戸をきこ人つま
はの自称をうゑ

是井

こつと井のこうやうりおさめうけそれよそまの汁
うをていとひさかさめ
長業こつと井は相坂よあるれのをよやこうやはわ
蓋しまのこうこの意也

花乃井

なをう井よやうはをくしかこまかけとうこと忘も
さしんまくさもう
長業あをう井は大和国乃井河のあうこ文京
文の二条万里小路よあるをう井と云はあうこ子細
まこ猿ゆうけもうこ井は本のうけをく　ゆこと
をひは宝水こんうこは馬より茅なり

まき柳

うとやこさとかこいとよりてとをや萱のとけや
二段　萱ゆめるといふうこはとけや梅の花うこや
長業古今集井サ四しの歌書柳とかこ京
よりて萱のゆめてふうこは梅乃花うこけこうとめけ

うゝふし源氏の業こ門のようゝ彩メよき柳とい
ゆゝ律の歌をゝくゝ初メと云へ
伊勢海
いそのうゝこのさゝ紀ゝさゝよ志かゝうひよるのゝそや
つゆんゝひやひろゝんゝそゆやひろゝん
是業は歌のゝいかゝゝれゝゝ西ゝ
遊ゞ生ゞ
あゝしよおゝゝゝゝゝゝれいゝゝかゝゝゝれゝゝやひや
むのさゝゝゝゝゝゝ年とのきかきゝゝ
是業ゝゝ年ゝゝゝゝゝ夢ゝゝやひゝんゝゝゝさ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ袋ゝゝゝゝ
我門糸

ようゝようやゝゝゝようゝものゝゝゝゝゝ下ものゝ
ゝめゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まつ〻と紙とさんくうさん稱ゝとのこゝ〻ゝしや
ゝこゝゝゝゝや
二段　ゝゝゝゝとゝゝゝゝ

女ゆーしかといふこゝろは其の名よて双六の盤は角うさゆ
えの本はゆをとめ其搖よひく物とし〳〵めてこうはさいを
いつゝ角とむしつゝめは生のくひこゝろかゝ行はりさうさいゝ
くは犀角とさいはをうこゝろひやうさいとさいは色さい
乃名数へしうはやうめんは表面と切りあしこゝろちんの表した
めかきゝうは須と切とし表面はこりうを云かけし紙
は盤の用はうはとこゝろあはこゝろ六のさいとは六の字
は二をあやまりて六とかきうはやは六のうゝは二か
れゆへこれは六さいの六はの目とこゝろあゝしをう万
業頼一二の目はあゝはんは六二はこゝろ双六の
さいといふは頼と用ふこゝろ

清水

あさむけのこゝろはこゝろとはりし女のあらし
はまとこゝろまとそこのおうひとはゝみをしあゝさちをう
そこうはこゝろはうはやはうさんしこゝろや
長業はあさむけは乃搖ゝ表淫はまは越おはまはは
あをあはやこゝろは搖の板とはこゝはんとはこゝろは
はまこゝはいこゝんこゝめ表といふは文字とくはこゝろおゝ人を
てゝはゆくとはこゝろこゝみりこゝは絵こゝかこゝは良こゝ人と
はゝつゝ須こゝをこゝこゝこゝは淫恩こゝ文はこゝは文こゝこゝを
とこゝはこゝはこゝをこゝこゝこゝは云こゝはうこゝはこゝは云遊こゝう
は六年はうこゝはうはまこゝはまこゝはこゝはこゝて梁柳とは女のこゝて
こゝはこゝはうのこゝはこゝはこゝをこゝはこゝは云こゝう

挿櫛

[illegible]

[illegible]

[illegible]

是葉乃のにぬきみのてよ我いありとおやよいつけ
よんあひの風といつる紋をとくうてふこゝのにとゝ越
おゑとゝんあひの風ハ風のもと

文衣

むろもうんきんやさゝんさらこさぬハ聖衣志のてゝ
こゝ紅の花もりやさきんしちや

是葉一枝ちさの葉ふのもりとあり是文ハ葉ふのと
つとうこひ秋をい花をりとうこふとゝり

何為

いうよきんやをゝのうもとりいてゝゆをんおやハありくと
さいかめしこうまハさゝめりやさきんしちや

是葉とゝのうもとりハ雪賜しこの葉のこゝくよいて

て紅ハおやハありくゝて罷うんをりようまハ秋の葉と

鶏鳴

とりハ午ゝさぬてふうさ作くらまろうをものとれゝて
ゝさゝり升てを重れうこちんまゝく

是葉とりハなゝさぬてふハ者ハなゝさめゝこんとかさ
さゝゝまろハ人の姓氏うへしを下の河来詳

老嵐

ゆゝてゝのゆゝちのおひ弱をゝおんをけんつをさう
むけをさけんつりうしふ海うけんゝふまう四か
うゝふまうさんゝよ海う四

是葉ゆゝちハ岩日来ちふ射して西ちゝてあり
いけくのちゆくゝを西よ海りうゝと云へゝ嵐よ

うさと老さらしあるへしわんをいはさんとけん何
い嵐のくひとりすと云きさいハ袋ゆえこれとけ師
と又師匠とよつきんとと云

臣右

くとの名とたなふとと云くとの名といるかといふ
はくとりきをくあうたをろい日のかのひつをめを
わくあうたをろ

臣葉くとたしらかとと云奥ふくかられとろ和と云
おちらかを若らかかと云うしとしたの何いまと蕃
なしんかさひて易きとろとへ

呂

安右為

あかあうとくふのあふとさやいうしへとれ
二度　いうしへをのくやありくんやくふのふやさ
三度　あうれたこうしやくふのあふとさ
臣葉あかあふとハあかあ嗜咲をろ新えたふとし
貴こしきハ我とあしきそこうしやそこハ足下也
人とふりとふ鈎と昔しりかくのしくうくひこうり
ふきとかふふとハ親定と世よあうりてハ万事
よ度へさまかろへし

新年

ひくくしさ年のくしめよやかくしふれしき
二度　かくしふれうへまつめとろ代きてよ
三度　あうれたこうしやよろ代きてよ

是業は歌いにしへ今集よりはじめて大おほひの歌よあまたしるせり年
のうちのふるしこれかくせどうつしてあのしるとはの
日なれよりはトのせこれはうへまつりめ百代までよとゆう
さいそうハ日なれはとつをてうへ人ゆく

梅枝

二段　むめうちんよりさかりなる雪やうちうぐいすくるる世
三段　あしもとてこうーや雪ちりつて
是業は歌いにしへ今集玄の初よへうう

桜人

桜人その母ちめもちうあとともちはく生ちうみくうへ
ちもんやそうやさすうちうんやそうや

二段　ことそとうれあすとハいちめとちうこうまさう
をうく世ハあとそうこうーやそうやしーやそそうう孫
こーやそうや
是業桜人い乾人ちうこうーー業人をこへーを
母ちめハその母とめくめ書れ母こちれ母をく
偽偽くこまちはく世ちうし偽偽ちんとうふとまち
まうきうちんくんて泊ちうこんいそれとうこ泊ちうこん
とうとやいうこうふやーこさすうちうこんハあを泊あん
ちうちんくこ二段ハ母ちうちうていうう歌のんくこくをそ
あをとうちうちあ何ちうこそあを泊ちんとうちうくこ
とちううさハをを方こうちはる世あく世ハはまちうハ妻
ちうふくかけうなあう世あハ文とこうさまハあしあを

[illegible]

葦垣

[illegible]

二段　[illegible]

三段　[illegible]

四段　[illegible]

五段　[illegible]

[illegible]

昔男ありけり[illegible]

[illegible]

[illegible]

人よりたまへりけるを
さうしまうさうしまうさうしまうさ

[illegible]

紀伊玉

[illegible]

二段　風[illegible]

[illegible]

[illegible]

清水の面にうつる玉のかげかなうつくしかりけり 玉のかげかな 古今集歌より水の面にうつる
かげ 花の名とつひとしかりけり 石なりとしらるれしるしとしるし
八雲の中さこ院はいとゝそとくんやハ歌
等と富きんと云歌とも

竹河

二條 花そのよやもとにいとゝあてはまとにいとゝあてはやを
ゆうゝうえて

是葉竹河に河内まよあり竹河の橋のつめなれ
花園よ我とゆるせやさーたゝへてと云歌とも
ていゆる世間ものめさたゝへていかゝはとてとゝんと

河に
かゝこにのきれのあゝうきやきれのあゝうふやぬらんと
とも

二條 ゆきれとゝいてゝまれぬやいてゝまれ孫ぬやを
きのあゝうき

是葉川口の関ハ伊勢よあり古拾歌川口の関
のあゝうきゆきれとゝ出てゝうき孫ぬ恋ひゝゝ
歌とかくうゝふとあゝうきいうきめきかもの歌
也ぬやハ孫やと同孫ゝうんと

伊勢

二條 きのよのハしへとゝんうゝ竹さ事のあゝれさ花事の花
ゆうきゝのうゝとめかうふとの竹うきう

盛りの花ざかりをや
夏草は花のいむへもとみるとりけさまれて三葉四葉な
との花ざかりをは秋いと古今集の六義の秋乃中にて
井秋は黄之色をとれりしへい宜しけさ夏い言はよ
桂とそとらへり桂木はすゆへ之位枝穂なりはれ
葉はよこ枝ともてしけさとよりの叔三葉四葉ふつ
花きくいろり一枝ふ事とそ云三葉四葉ふ崩
いつゆへしくを嵐とし○四し祢よ秋ゆ秋へ
は夜西
このよのあわれ花さ夏日をそあそれ
秋日をそそれ
二段　夏日をそゆをとゆけをつををあ一のそ

かこやあ一のそそうふ
夏葉そそうさい金の塩と夏日をそ秋をつをぬ
ちちちちそ秋のとそ秋さすとそう
は夜奥
このよのくおくけさうやのうしたまりあわれうけさまりて生
二段　うしたまり秋とうを生とうしこさちちちるうや
こ秋ちちしなう
夏葉うしたまりは酒をこうふ女とうをこさこさこさいみ
坂のををとちくしちうし
雲山
きそう山よ四う秋をちちあけくあくとなをあそれをく
とををこを生

二段　たくとかこうんたまうたるとあんなるかも
うとやのへかけれうも
是葉雪の山ちくたれとも春とてとくとくと
かしもおしまれいまこそかうもりもとうかりけ
とこたかり

義孝

ほんまけうやうあのけく山けうくまとやうくまな
よや

二段　けうくまけうくあかしまとしらけ世まとしまや
義代まとしまや
是葉みまけうやうあのけく山さくくまは我れたとて
義代やうくまは世はいまうこけのおのみと

のんまさうのけへのうくと

菊生野

みちはのくかくちくちくまうくまとあしかもや去
めしやしまとしまや

二段　去めしやしいつさいとひしちくかはあんあら
もやとはとあくうもや
是葉みちはのくかくちくちくふとめしやしいつくいい
ひしけはあんあうもくとくあくく菊生野とは山城国よ
あう去うしやしい野とくしめくくまとしやとくいつくい
まひしけ宮あややうて

妹与我

いもとまれとうくさの山のあらくまとておとうかまとそ在

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

淺緑

あさみどりやこいそめてけさやかるらん
さ夜ひるまてひるまんさのさくらやまさ
ぞくいさわくたるきんさい秋ちれるそしこのうわひさ
きちりやまれ

是素淺緑いろさ緑こい花田ハ濃花田ことこれ
柳の糸をつくりて夜ひるを下ひるを玉柳のすし
きんさやうい新素ことさうい業薩門ことし城の年安

城ことつくりよやいてさるい家村ものを板ことちさてゆうあ
板井水ことこれよやいきさ詳ケしんあ裁の業花とか
きんうけうりかうりひいうう蓑こ

きち馬

河をちるこうきいとうつるをさとのまてうを巴ハとうつる節
きのいさやのこのいさやのさとこうひこかうさ、ろんこま
たいつしひしこのきいさのうしれさとこうひこかうさい
うんこ

是素あとのまいきち色のうしさとのまいをこうきさ馬
とつくうこのいさやいれのうあ城へしさをこうへのあかう
ひこい當孫こさいうんこいた海子こ童の名こあいこう
うきうたいさいた彼よやたかうた彼あうとうふくこ

こゆるぎのいそとうたはれたり

妹之門

いもうかとやをかうくやゆるぎをたりてけつゆにひらかさのひちりさのあをやをやをんをてゆるぎあまやとりかさやをりあをりて後ろんちくくゆるぎ

員業いをう門を女の門と世ふう門いまの門とひちりきゆ

ちく後よりあうゆるぎのををもあくをして袖とうく袖也

ちくくゆるぎとさい郭ちのあをゆるぎあやをりてやゆくをを

世ゆるぎとうをひをりをりをりをを

席田

むしろ田のやむしろたのいけやをを川よやをむしろの

二段　をむしろのやをむしろの中也とうをりてをあ

をひあくゆるぎ代りてをあをひあくゆ

員業席田をを伊津ぬを川を義法のをあを

大宮

大宮のあをのちんちよあやめんをりをやをりをりゆ

ををやりをんか

員業西のこんちゆ西のやををあやめちんをりゆ菖蒲をり

をりをををを相也をををやをを入あやめをりをりやりをん

あをりをりをりゆ

紙角

ゆをををををやをりをりをりをりゆをりをりてゆ

ゆをりををををまをりをあひをりをりをりをりかをりあひ

よきうらうく

是葉山あをまやまさい車かとよさうら絲とてこうと
云童の名よてあつへうんひろい尋し八人と号し云
八人しうう女とさうりてゆ孫きとをつひよいまろひ
うといつうかうはひしうを宮会うこうとう
うのうし

女滝

とこ志けさうこ中元きひの中山昔ちむこうう
二版　昔うこ昔うかのうこめ今の世代者之の日代こめ
是葉女志きこ元きひの中山むこうるのうこぬ
ち今の世代ちうこいつう宮志こ女志元分耳の女のおうこし
義山

月の山よ志ひ人こよとひうう志むこうこのあうよあふ
うきのこさやけうこ女のこさや
是葉月の山よ志ひこよおひうう志相志ゆよあふうこ女の
志つさけ志ハ是和帝の大業志の慈紀の風俗の歌志志つ
ち志ちくはこうこそ志ひ志んこ中とうこぬし

眉止之女

月まちつさとうう四人まうもとこめまう四とこめまう四
やこめ四四やこめまう四とこめ

是葉まう四とこめハ女の名し

酒吹

さけとこうこてこんてたとこうこんそやまうてく
ちよううひそまうてこうこんかこんかこうやこんかさ

つとちうう

員素酒とゝう〳〵てハ酒とのこゝろゝゝゝてんのん
ゝゝてゝゝゝゝとこゝんそハ酔てゝゝゝゝよゝゝひ
そハけゝくゝゝてゝゝゝゝひゝゝゝんとゝゝゝまう
てゝゝハゝゝてゝゝとゝゝのハけゝゝまゝゝゝゝんな
ゝゝゝハゝてゝ能のゝとゝゝゝゝゝゝのゝゝ

田中井戸

ゝかゝゝゝゝゝゝゝひゝゝゝゝゝゝゝ

つまやくしんの国しまさ[illegible]
さを淀川のわたり毎津とつゝへ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

やハらんつゝまれやハらんつゝをつゝむ
歌葉さかりんハ本とさりてはゝ〳〵ゝ〳〵ゝまさかゝ
を冊生門よりいつゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
大明上の歌と同一

我家

ゝゝひゝゝんハとゝゝちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ